

昭和三十一年九月三十日招集

第三回市議令定例令々議錄

館山市定例市議会全議録

昭和三十五年九月招集(第一号)

一九月三〇日(金曜日)

一現在議員三四名でその氏名次の通り、

- | | | | | | | | |
|----|---|-----|-----|----|---|-----|-----|
| 一 | 番 | 山本 | 昇 | 二 | 番 | 脇田 | 順一 |
| 三 | 番 | 三沢 | 節 | 四 | 番 | 志村 | 信作 |
| 五 | 番 | 岩崎 | 静敬 | 六 | 番 | 嶋田 | 繁 |
| 九 | 番 | 吉田 | 勇治郎 | 一〇 | 番 | 佐野 | 信 |
| 一一 | 番 | 川名 | 秀吉 | 一二 | 番 | 黒川 | 佐太郎 |
| 一三 | 番 | 長谷川 | 光江 | 一四 | 番 | 江田 | 徳太郎 |
| 一五 | 番 | 小林 | 寅之助 | 一六 | 番 | 石井 | 孝 |
| 一七 | 番 | 安沢 | 徳順 | 一八 | 番 | 安西 | 政治 |
| 一九 | 番 | 法木 | 嗣郎 | 二〇 | 番 | 萩生田 | 七郎 |
| 二一 | 番 | 後藤 | ゆき | 二二 | 番 | 田中 | 禄郎 |

二三番 吉田辰雄

二四番 飯田義男

二五番 鈴木市藏

二六番 鈴木彦太郎

二七番 田中忠藏

二八番 加藤良太郎

二九番 遠山ヨネ子

三〇番 北山茂雄

三一番 田村喜兵衛

三一番 鈴木孝

三三番 山口幸三

三四番 松本藤太郎

三五番 山口康

三六番 鴻貫壯作

一議事日程 第一号

昭和三十五年九月三十日午前十時開議

報告第八号 昭和三十五年度七月例月検査報告

一九号 八月臨時出納検査報告

二〇号 九月例月検査報告

二一号 臨査報告(高校、青年学級、幼稚園、保育園)

二二号 (公益質屋)

第一

報告第三号、臨査報告（と畜場、火葬場）

第二、報告第二四号、千葉県立館山職業訓練所寄宿舎用建物と千葉県に

対しと寄付し肉する専使処分報告

第三、陳情書

第四、議案第八五号、臨査委員の選任につき市議会の同意を求めらるについて

第五、ハ大号、教育委員会、委員の任命につき市議会に同意を求めらるについて

いて

第六、六三号、都市計画街路事業橋梁工事請負契約の締結について

第七、六四号、消防団消防自動車用タイヤ購入について

六五号、消防団消防自動車用タイヤ購入について

第八、六六号、消防署消防自動車用タイヤ購入について

六七号、消防署消防自動車用タイヤ購入について

第九、六八号、広報連絡車の購入について

第一〇、六九号、広報連絡用原動機付自転車の購入について

第二 議案第七〇号 東長田用水改良事業用資材の購入について

第二 〇 七二号 昭和三十五年事業分担金への賦課総額の決定について

第三 〇 七三号 中学校科学館建設費指定券の金收受について

第四 〇 七四号 高等学級産業教育施設費指定券の金收受について

第五 〇 七五号 休養施設備品費指定券の金收受について

第六 〇 七六号 館山市国民健康保険条例の一部を改正するについて

第七 〇 七六号 千葉市外百一市町村の軽自動車税の賦課増収に関する事務

を扱う職員の間同設置規約の一部を改正するについて

第八 〇 七七号 館山市職員給与条例の一部を改正するについて

第九 〇 七八号 館山市学校職員給与条例の一部を改正するについて

第九 〇 七九号 昭和三十五年特別会計公益質屋追加更正予算

第九 〇 八〇号 国民健康保険追加更正予算

第九 〇 八一号 と畜場追加更正予算

第九 〇 八二号 休養施設追加更正予算

第三 議案第八三号 昭和三十五年度一般会計追加更正予算

第二 〃 八四号 東用自動車の購入について

第三 〃 八七号 国民年金に関する意見書

一本日の会議に付く事件

議事日程に同じ

一 法律百三十一号による出席説明員

市長 田村利男

助役 小出武男

収入役 完戸 貴

総務課長 山口 実

秘書課長代理 小倉澄男

商工水産課長 羽山 彦雄

福祉事務所長 長谷川 玄治

厚生課長 伊藤幸太郎

保險課長

神作啓次郎

稅務第一課長

眞田森吉

農產統計課長

多田俊一

市民課長

吉田耕一

建設課長

高木哲三

選管書記長

新井重助

消防署長

大島重義

教育長

安藤龜吉

庶務課長

工藤和平

鹽查委員

鷺沢貫覺

鹽查委員

関 武夫

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

職

員

兵藤恭一

同

山口晴之

一千前十時開議

出席議員三名

欠席議員一名

二三番

吉田辰雄

議長山本 早 君 本日出席議員數三名より第三回市議會議定

例会を閉会いたします。

本定例会の議案説明のため田村市長、小出助役、寛平收入役、山口課長、羽山課長、夏田課長、高木課長、新井課長、吉田課長、真田課長、神作課長、伊藤課長、長谷川所長、大島書記長、小倉主事、工藤教育長、鶴沢課長、安藤署長、関監査委員以上の出席を求めましたので御報告いたします。

全議録署名員を指名いたします。

従来の例に準じまして二番議員脇田順一君、九番議員吉田
順太郎君以上両君を指名いたしますがこれに御異議あり
ませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(山本 早一君)御異議なしと認めます。

よって決しました。

議案を配布いたします。

(議案配付)

○議長(山本 早一君)配付のれどございまするか。

はいと認めます。

会期の決定を行います。

本定例会の会期につきましては議会運営協議会の意見
は本日より十月三月までの五月間ということであります。

お諾りいたります。

会期を五日と定めさせていただきます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本 昇一君)御異議ございと認めます。

よって決定いたします。

本日、議事はお平元へ配付の日程表より行います。

これより議事にいたします。

この際本定例会の議案につきまして市長の提案説明を求めます。

(田村利男君登壇)

市長(田村利男君)本日、昭和三十五年九月定例会市長を招集

いたします。当面する諸案件について各位の御審議を

お願いすることになります。先般姉妹市ベリニハム

のウェストフォード市長一行が突然本市を訪向され、この際

しきしては各般にわたる各位の御協力によりまして姉妹市
間の協力の十二分の成果を上げることができ無事全日
程を終了いたしました。昨日二十九日一時羽田から空路帰
国へ途につきましたので、御報告を厚く下礼申
し上げる次第でございます。

さて本日提案いたしました案件は専ら此分報告一件、都市
計画新路事業橋梁工事請負契約の締結と始まり、消防
自動車二名の購入、乗用自動車、購入、広報連絡車及び
原動機付自転車、購入、用水路事業用資材の購入、林道
及び小田地開発整備事業分担金の賦課総額決定、
寄付金收受について三件、条例等の一部改正四件、一般会計
及び特別会計の追加更正予算、さらには教育委員会委
員一名の任期満了と後任者の決定について市議会へ同意
を求めるところでございます。いずれも各案件ごとくに担

各職員より詳細に御説明申しエグりますので、之にとぞ十分御審議の上御賛同下さいますことをお願い申しエグります。簡単でござい御挨拶に代えられ次第でございします。

議長(山本 早一君) これより日程に入ります。

日程第一報告第一八号乃至二三号を一括して上げます。

(書記 朗読)

報告第一八号 昭和三五年七月例月検査報告

一九号 八月臨時出納検査報告

二〇号 九月例月検査報告

二一号 監査報告(高校、青年学級、幼稚園、保育園)

二二号 (公益質屋)

二三号 (と畜場、火葬場)

(関武天君登壇)

監査委員(関武天君) 報告第一八号乃至第二三号について御説明

申しあげます。

まず一八号でございしますが九月一三日に実施いたしております
例月検査の結果の報告でございします。

一般会計におきまして収入の部における収入未済額が
九千六百九十万あまりを載せられておりますが細期のこな
いものが約七千三百四十万ほどあります。正味の滞細額
は二千三百五十万円ほどでございします。

支出におきまして二千七百七十万円ほどで下ります
がこのうち土木費においてバイブレーションローラーを
一名買っておりまして百六十万支拂われております。

以上で一般会計につきまして御了承願いたいと存じます。
次に特別会計に移ります。休養施設会計支出の部で四
百五十万あまりございしてあります。このうち四百三十万は
建設費でございします。

以上で第一八号を御了承願いたいと存じます。

次に第一九号に移ります。八月一三日議員三名のすのおま合を得て臨時出納検査を實施いたすこと。

まず一般合計におきまして市税の収入未済額であります。これは七月末に納期がきたものがありまして関係で正味滞納額は前月よりふえてあります。納期のこないものが五千二百八十万ほどありますので差引ます正味滞納額は約三千七百七十万ほどでございます。

市税の収入割合をみますと七月末まで四百四十万五千円ほど入っておりますがこれは前定額に對して五四、三%に當っております。昨年とは四六、五%でございます。

以上で一般合計を終りまして特別合計に移ります。

国民健康保険に事業収入として三百十五万あまり入っておりますがこれは国庫のう給付されまして療養給付費

の預金金が三百十二万五千円あり、その金であります。
次に休養施設につけて鶴山荘の収入にあつて、その他の
収入で千七百五十万円入つてあります。これは市債が
千五百万円入つたのであります。一般会計からの繰入金が
二百五十万円、で事業収入で三十五万三千五百円入つて
あります。が七月五日から営業を開始いたしました。七月二五
日までの分の売上げでございます。

以上で第一九号についての説明を終わります。

次に二〇号、九月一三日に実施いたしました例月検査の報告
でございます。一般会計市税において千八百万円ほど入
つてあります。この内訳は市町税が四百六十万円、固定
資産税が約一千万円、たばこ消費税が二百十二万九千円
あり、その他電気が八十六万円ほど入つてあります。
市税の収入未済額をみますと、七千五百万円に記

載されております。このうち納期のこぼいものが約五千＝
十で正味滞納額は二千五百三十万月ほどございます。
支出はおよそ二千万ほどでありすが大きなもの
として土木のトラックがニブカーを買った費用でトヨタ
の五トニ積みトラック一台百三十一万とトヨタのガニブカー
が一台百五十万月でございます。

以上で一般会計を終ります。次に特別会計に移ります。

公益質屋会計で欄外の貸付現在高百七十六万九百六十月
でございます。般形質屋が九十七万六千五百月 富崎
質屋が七十八万四千百九十月でございます。

国民健康保険で保険料の収入未済額は二千八百六十五
万月ほど記載されております。このうち納期のこぼい
ものが二千百六十五万月で正味滞納額は約七百五十万月
弱でございます。

保険料の収入状況とみますと合計額が九百八十万円ほど入っておりますがこれは前年度の納期のきれたものに対する二五、六名でございします。昨年同額は二七、八名となっております。次に休養施設事業収入が百二十三万七千八百九十九円でこれは七月二十六日から八月二三日までの営業収益です。支出におきまして六百三十四万円ほどでおりますがこのうち建設費が四百四十八万円、通常経費が二百三十八万円でございます。以上で二〇号の説明を終ります。次に二一号について申し上げます。六月二八日から三〇日まで高等学校、青年学級、幼稚園、保育園における昭和三四年年度の授業料等の徴収状況、経費の整理状況について調査を施行いたしました。お、おね見を参ります。そのつど不備な点は指摘してありますので、總括的に申し上げますと、年々非常によくなっております。特に

接業料等の徴収についてその帳簿の整理状況 市金庫
の細付状況等はお、おね 良好と認められます。これは
公金取扱上当然のことではございますけれども関係職
員の努力によるものでございまして私どもはその労を深く
多とする次第でございします。

以下細かい点につきまして若干指摘—これを是正していか
うしようかとそれ—関係者には申し伝えてございします。

内容を御精読願いたいと存じます。

次に第三号について御説明申し上げます。

公益貨屋の監査を九月一日に実施いたしました。表面
の出入金におきましてはこの表にございますよう二千三万千
四百九十三の黒字となっております。—このことを事業
経営上の観点からみますと付表に記載いたします。—
よう貸借対照表を御覧いただきますと思っておりますが相

二四、九千八百六十三月つれまゝて利子、方、一万五千百三十円
入れ、でございます。従、て帳簿上は三四、五千三百三
十七月の損失を生じておりますけれども、まだ流天物充
却未済のもの、が二四、点保管してあります。この処理につ
きましては本當の機を逸、い、よう、と、さ、い、でも条件よく充れるよ
うに適切に時期を遅、んで処理して、も、う、よう、と、強、く指摘して
おきます。以、て公益質屋の監査の^{報告}結果の況、を終ります。
次に第三号について申、上げます。

九月六日、と畜場と火葬場における三四年度の事業運営
状況について監査いたしました。

と畜場であり、すが、に記載、いた、す、一、と、う、と差、引、さ
四、三、万、月、あまりの赤字と、な、つ、て、あ、り、ま、す。し、の、一、と、う、こ
のうち、は臨時の支出とも認め、られる軌条取付工事請負費
が八十三万、月、あまり。看守人の退職手当が二十一、万、月、あ、ま

り、これらを含んでありますので、平常的な数字につきましては約六十万ほどの数字だと思っております。

と畜場の使用料の徴収につきましては、証紙によって行われているのであります。が、関係簿冊と該当証紙の合致していることを認めました。三〇年度から四年度までの使用料の徴収状況はこの表にある通りでございます。

施設につきましては、移動用の軌条の取り付け、電気鋸を利用する、電話を架設した、こういう関係者から多年要望の強かった施設が着々と整備されてきて、大いに活用されております。これはこの事業の進展上まことに同慶にえないところでございます。

一、厩物の貯通槽はコンクリートで完備されてきたが、これに際して生ずる血液の処理施設がまだできておりません。いろいろ話を聞いてみますと、本当に科学的な処理

施設をすることは相當の至費もありかつあのと殺場の
建物 そのものを變えていかねければならぬ。これは現在の
財政状態に於いては至難のことであらうかと思ひます。

せめてできるならば浄化施設を作つて血液を清浄にして
流し込むといふことができるものか、もしできるとすれば
そういふ施設をされることを望みます。と思つた次第でござ
います。それからつり下がり移動用の軌条を家屋の中
に施設します。その重さでと畜場の建物の棟がた
んでゐてあります。その建物の下側の板が氷などかけ
れますので相當腐つてあります。この二つは至急修理を
すれば比較的安い至費でできるやうに思ひます。うでそ
う願ふたう願ひたいと指摘します次第でございます。
次に火葬場でございます。収支に於きましては十二万七千
五百四十九月の赤字となつてあります。

この使用料の徴収についてはと畜場と同様に収入証紙によつて行われておりましていすれも向違ひのないことを確認
いたしております。

施設は入つて右側に建物を入れてあります。これは昭和三三年
一月に建てたものであります。送葬者の待合施設として非常
に利便さざりております。今後ともあの施設を市民の本當
に心おきづく遠慮なく利用できるように十分留意しては
いるものでございます。

火葬用炉に通じます重油のパイプであります。あれが炉
に近いたころのコックが磨滅してきかなくなつております。
又パイプの継ぎ目がケ―すまができてそこから重油が漏れ
ております。すなわち煙突の上部周辺のコンクリートがは
れまゝであつたといつておれにくるかわからない状態です。
このパイプと煙突は非常に危険でございますので

るなら至急修理してほしいものでございます。
以上で二三号について説明を終わります。

議長山本 早君以上で報告第一八号乃至二三号の説明は終り
ます。お御質疑ございせんか。

三〇番(荻生田七郎君) ちよと特別会計のあり方につきまして市長
さんにお尋ねしたいのであります。今報告のあります
各種特別会計の内容をまますと若干その事業その
ものはいずれも市の直営である、いわゆる公共性をもってあ
りますから民間の経営状態とはおのずからありかたを異
にするとは当然であります。例えばと畜場の場合ににおい
ては実質的には黒字であるとか、わづか赤字と云々である
また犬葬場一り、こうーなところへさうと水道あり、休
養施設あり、と特別会計がござりふえて参つておるのであり
ます。従つて一般民間会社の経営状況からいましてすく

ばときには強き採算利率が用ゐられて一般会計への適正な運営化が行われておるのであります。市の場合は先ほど申しあげましたように当然この経営実態というものが、形式上においても違つてゐる。これは当然でありましてけれども、さういふ表面のみで現れてゐる数字のみを受けとつて報告をうける場合、われわれは特殊な特別会計の内容につきまして、漠然として報告を漠然として知識のみでの取得でまゐるのであります。

例えばと畜場の問題、これは当然相当の黒字が生じておるのであります。今は赤字となつてゐる、その実態はどうなつてゐるかといふことをわれわれは概念的に、かわらない、さういふことはい、かどうか、この点につきまして、御当局の説明を聞きたいと思ひます。すなわちこれを一般の経営状況にして例へば、今圓の場合

施設を加えますすれば固定資産の増加となり、現われる。
そうして独立採算制のバランスシートが一応であるのでは
ないか、ところが従来のこういふ形式におさましてはそ
れがつまびらかでない。私どもは常々特別会計をみる
場合においてこういふ実態というものを把握したい。
そうして社会公共性を建前にした場合それに対して
相当の一般会社の繰入金は当然であります。特公公
益貨屋の場合におさまるべきは当然。そういふことをさ
なければならぬ。要するに概念的には、きりとした
一つの見通しといひ、まずか事業そのものに対する見
解と申しますか、解剖する力を常にもっていたいとい
うことがわれわれ議員の念願でなければならぬのです。
そういう意味においてこういふ経営のやり方というも
のが一般の民間のようないけはいますまいけれども

少くとも特別会計と建築とにする以上は、つまり一々実態
 の検討をすぐできるような形式に改めるが、あるいはそ
 れができてなければならぬ。一見一てわかるよう
 な形態を整えて御報告できるかどうか。内容の検討し
 たいように御報告願いたいのであります。あるいは数字的
 に御報告願えるかどうか。またこれと必ずさかどうか
 この点について市長さんの御見解を承りたいと思
 います。

○市長(田村利男君)　いろいろおっしゃるようなこととございしますが
 結論として市役所等あるいは地方公共団体のものは複式
 簿記でやらないのが建築でございまして例えば今度でまた
 休養施設、金銭の收受、向題につきまして複式簿記
 をやらないということ、複式簿記をやらせることが非
 常に困難を生じております。一かーながら休養施設

だけではあくまで複式簿記をやうして鳩山荘で日や
ってあります。がその他の固定財産などの位ふえているか
というようば問題を一つ取り上げて報告できるかどうか
ということはおもうが考慮していた。今までは
そういうことをやろうと一々気がないわけでございます。
今後そういうことをやらせることができるかということをお考
えなことがあるかと、新しいケースでございますので研
究して別の機会に御報告いたします。

○三番(荻生田七郎君)それはよくわかっているものであります。
複式簿記を適用できないから單記をやっている、一つの
資産勘定、負債勘定の場合において一応実態把握の意
味において参考でも結構でございます。それからどの程
度によつて必要性能あるか公共性の関連があるか、今
後こういう報告をされる場合にそういうふうにしていたけ

れば参考になるということも申上げておるのであります。決して複刊簿記によつて報告願いたいとはいつていないのであります。

○市長(田村利男君)収入役等によつて研究されていきたいと思います。思います。

○四番(志村信作君)と畜場や火葬場等の修繕を要する箇所は所管課において常時注意しておくべきだと思いますが、今までそういうことはなかったものでございますか。

○厚生課長伊藤幸太郎君)お答え申しエ致します。

と畜場の場合御指定箇所を受けましてカ所につきましては見積りをしてございますので早急な修理いたしたい。そういうふうに考えているわけでございます。と畜場の場合は御承知の通り月、水、金、三回その都度私は見聞っております。いろいろ御質問のようならば十分みてお

るつもりでございすすが多少工事についての特期的な
すれがございすすので早急に見積りを取りすして工事
にかゝりたいと思つておりますので御了承願ひます。

火葬場は煙突の修理も一応見積りを取りまして現在完
了に近いことになつてゐるわけでございます。

追加のとき御説明いたしたいと思ひますがこの点御了
承願ひたいと思ひます。

〇三三 香山 幸三 君 鳩山荘のサービスの問題でございますが過
日ある団体も遊びたい、なとくに食堂に三分も待たされ
てだれもつらい、いやいでもずいお茶とも、てくるでもずい
奥に、やくにきつ、なということを聞いたがこういう点は
どう指導してゐるか参考まで聞きたいと思ひます。

又と畜場の問題ですが、臓物の問題、血液の問題が永い
間地元の人々から何とかならないか、衛生的にも非常

にまづいと聞かされてあります。今、報告を致し、まず
と大臍物の野田藩はコンクリートでできたと。――血液の処
理施設はどうか。――あるといひ、まずがこれもできるがけ早
く何とか処理していかうかと思ひます。

それら国民健康保険料の問題ですが、これをみるとか
ずりの未済額があるようであり、まずが未済者が万一病氣
になつた場合、どういふ処理をしてゐるか、これも思
ひます。

。商工検査課長羽山秀雄君休養施設の向題についてお答をのた
ります。

御承知通り鳩山荘の玄関に向つて右側に事務室がござ
います。――常時職員が一名は――二名必ずありますので、お
そらく玄関に入るお客様に對しては、そういう扱ひは――な
いのではないかと考へてあります。――今後のことも

ございますので十分その点注意をさせていただきますので御了承願ひ
まいと思つます。

○厚生課長伊藤幸太郎君血の処理の問題ですが実は週日得
健所の獣医さんとも話し合つたのでございます。報告にあり
ます通り、全費の内題等からみますのでできるだけ研究
——そして全費の少ないことで何と処理していいかと考えて
おりますので、しばらく研究をしていきたいと思います、というふう
に考えております。

○保険課長(神作)替次郎君保険料の収入状況でございます。監査
委員から報告のあった通り、昨年からの比較を——すると
収納率は相当上昇してあります。未済はつゞき——と
も保険にかゝるということは拒否をさせていただきます。うで病気
にかゝつたときは遠慮なく保険にかゝつていっていいと同時に
私達という——す——はもう納期内、ばい、に納められない

という人々を招かれを鞭達として納入していただきなうと
いうふうな督励をしております。

議長(山本 早一) 君御質疑ないうでございますので次に移り
たいと思います。

議長(山本 早一) 君日程第二報告第二四号と上程いたします。

報告第二四号 千葉県立館山職業訓練所寄宿舎用建物を千葉県に
○総務課長(山口 実君) 町下る専決処分報告

報告第二四号 千葉県立館山職業訓練所寄宿舎用建物を千葉
県に對し寄付に因する専決処分報告について御説明を申し
上げます。

このたび館山職業訓練所が本市船形に移転するに際しま
して本市にありまして去る三月一八日日本市議会において工費
百五十万円の予算を計上いたしまして寄宿舎を建設して寄
けする件が議会の協賛を得たのでございます。その後の

各週といひまして三月二十四日石井、計、寅、高橋、各工務店
を指名入れいひました結果、高橋工務店が百四十五万円で
落れられたのでございます。その後工事の順調に進みまして

八月九日竣工したのであります。

本市といひまして不建物と

管理する保管上果たなるべく早く寄付するべく八月一八
日果に対して寄付收納を申し出たわけでございます。

議長山本 早(君)報告二四号に対して御質疑ございせんか。

ザーと認めます。

報告第二四号を承認することに御異議ありませんか。

(「異議ザー」と呼ぶ者あり)

議長山本 早(君)御異議ザーと認めます。

よって報告第二四号は承認することに決定いたしました。

以上で午前中の会議を終り休憩に入りたいと思ひます。

暫時休憩いたします。

十一時四十分休憩

一時十分再会

議長(山本 早一君)午後のお席議員数三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三 陳情書と工程についてです。

(書記 朗読)

陳情書

議長(山本 早一君)紹介議員の説明を求めます。

○三番(田村喜兵衛君)紹介議員と代表についてお願いの言葉も申し上げます。

私がこゝで申し上げるまでもなく、陳情書にある通り白河から館山に通ずる道とどうしても皆さんにこううえてもらいたいということを前から考えておりますが、今

まででございなかっただというところ遺憾に思っております。
何とかしてもらいたいということ、陳情書を提出したよう
な次第でございします。

私がくどくどいうと釈迦に説法ということになりまして、こ
の陳情書を採択していただくこの肉題を一日も早く取り
上げて解決してもらいたいと私はお願いするものであります。

議長(山本 昇) 本陳情書を採択するに御異議ございせんか。
(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(山本 昇) 御異議ございと認めます。

よって本陳情書は採択されました。

ごめいけいいたします。

本陳情の処理につきまして議長において市営ると協議
いたしまして果の方からさうこの趣旨を陳情いたしまして
すみやかになれるような方法と請うたいと思っておりますが

よううございすか。

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

議長山本 昇君 御異議ございと認めまう処置いたします。

議長山本 昇君 続いて日程第四議案第八五号と上程いたします。

（書記朗読）

議案第八五号

市長（田村利男君）監査委員の選任でございすかちよと本日と

もって監査委員の任期三年が完了になるわけでございます。

三期にわたって園武次君が監査委員の職責をよくつとめて

下さいます。市の行政事務全般にわたって監査をやって下さる

たおかげで市の行政は大禍びくというばかりでなく本當に

誤りびくやなくてなつたのも園監査委員のおかげだと感謝し

ているわけでございます。

この園君がこのたび一身上の都

と申しますか。家事の都合と申しますか。委員を辞退する
気持が強くあります。それで市長にお聞きしてもさうにお
願いするということもできかねます。それで奥君の辞意を
認めまして新しく監査委員議会にはかつて選任し
たいと思う次第でございます。つまりそれは今朗読
いたしまして川エ栄君を後任者としまして市議会の
承認を得たいと思つておられるのでございます。

川エ君は皆さん御承知の通り館山市に生れます。と
永らく税務署畑で育ちまして最後は木更津市市長
館山市長などをして任されて今五十九才ですが、そう
いふ方でもよくいろいろソロバン方面におられます。一
ても達の人でありますので御推薦したい。こういう
うわけでございますので協賛を得ますようにお
願いする次第でございます。

○三六番 嶋貫壮作君もう少ーその人となりについて能書日
べりありませんか。

○市長(田村利男君)明治三十七年三月二十七日に生れまー大正十五
年ト大蔵省列任官、大正十五年ト館市市主管、直
税課勤務、昭和四年六月市ト税務署直税課地租の主
任、昭和十年十一月二日千葉税務署直税課地租主任
大正十二年十二月十五日館山税務署直税課長、二十二年千葉
税務署直税課長、二十三年千葉税務署総務課長、二十
五年五月九日木更津税務署長、二十七年三月三日同トく
退官、二十七年税理士登記、二十七年税務会計事務所
開業、三十四年通産省中小企業診断員、
~~昭和五年五月十日~~現在事務所を市役所。かにも、こや、て
ありまふ。

○三六番 嶋貫壮作君、至大は大体わたりまー、が監査委

員というのは特別な職務のように思っています。それで監査委員と市長さんお満足に勤められるというのと、役員の惚れ方を一々しているのか、その惚れた味をどうと、

市長(田村利男君)まず市の監査の一番重点とするところは常識的に考えて市の経済、金銭の出納状態をよく監査することが第一点だと思っています。

第二点として先ほど報告しましたように、場とか、休養施設とかそういうところの事務的であるいは施設の市の行政が円滑にいつているかどうかということを監査するのが第二点だと思っています。

第一点につきましては永年税務事務、ソロバンにかけて達者な人と確信しております。第二点の惚れ方と申しますか、税務署におきまして総務課長

ちやり、また税務署長もやっておりまして、いろいろ、館山市内の経済等について、お知らせしているような点を上げまして、ほかにも、八人候補者もありまして、いろいろ私の相談できる人に相談いたしまして、その中で、その中で一番適当じゃないかというふうなことで、惚れたわけでございます。

三六番(鴻貫社作君) 私は惚れたと申します。うは、こう
いう点があつて惚れたという点をおまかせ願へば、
結構だと思つたのであります。が、そういうことはない
のです。が、市長さんの最後の言葉に、七、八人の候補
者があつて、その中から相談する人と相談しないこ
の人が一番困難であらうというから、うは、ということ
ですが、そう思つてよろしいやうでございますか。

市田村利男君結構です。
相談する人というのけわ

かりまじうがその意見もきいて市長におまじいで
大体序列第一によつてあつた川上君が私の相談した
人も大体そうであるというようなことで一致したわけ
でございませう

○三六番(鴻貫壮作君)市長さんはこの方ならば満足に勤め
られるところだと思つておいてなるかう御推薦したもので
ございませうがその点とそう考えてよろしうございませうか
○市長(田村利男君)よろしうございませう

○三三番(鴻貫壮作君)監査委員の選任につきまして私は川上
栄次を推薦するに同意をいたします

○議長(山本昇君)本案に対して同意いたしますことに御異
議ありませんか

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(山本昇君)御異議なしと認めます

よって議案第八五号は原案通り同意することに決
定いたしました。

この際永い間の当市監査委員として御活躍下さい
ます。監査委員岡武天君より発言を求められてお
りますのでこの際発言を許します。

(岡武天君登壇)

○監査委員(岡武天君) 本日さうまで監査委員の任
期満了によりまして退任いたすことになりまして、

議会の皆様へお礼の御挨拶を申しあげたいと考えて
おりまして、本日この任期の最終日に、まうく議会
が閉会されます。一歩この本会議の席上におきま
してその機会をえられまして、これは私衷心よりうれ
しくかつ光栄に存ずるところでございます。

私任中は議会の皆さんから非常な御厚情を

いたゞきましておかげさまで不悞 葬式にもか、わらず
大過なくその任をつくって参ることができました。

これのとえに皆様の御指導と御鞭達によるもので
ございまして厚くお礼を申しあげます。 私がこの任に

つぎましてのは昭和二六年一月でございまして、その

年、^{決算}概算額をみますと約一億円 市税収入におい

て約五千万円でありました。 本年分の八月末における

数字をみますと予算額において約三億二千万円

市税調定額におきまして約一億四千万円 し、

これは本年度不までその増加するはずでございまして

てこの九ヶ年に三倍半、かう四倍近く伸びをみてお

ったのでございます。 たいまいろくいわれてあり

ます千葉を中心とする 京葉工業地帯の造成に伴

うレクレエーション地帯としての房州 その中心とし

この館山がように考えますと今後五年後一〇年
後のこの館山の発展がまことに目に見えるよう
でございましてそれだけに議会人としての皆さん
御苦心お骨折りも容易なものではないとお察
し申すのでございます。どうかますます御自愛の上
館山市発展のため市民生活向上のために御尽力
御活躍あらんことを切に申しあげます。

今後私も市民の一人として商業人の一人として過
るわけでもございまして従来私と密せられまして
と同様の御好意と御厚情を今後ともよろしくお
願ひ申しあげます。まことに簡単で天礼でござ

いますすがお礼の御挨拶といえます。

永い間本当にありかとうございまして（拍手）（右脇
査委員の声あり）

議長(山本 昇一君)つづきまして日程第五、議案第八六号と上程いたします。

(書 記 朗 読)

議案第八六号、教育委員会、委員の任命につき市議会、同意と求めるところについて、

市長(田村利男君)教育委員の選任でございしますが、これまた本日とも、満期になるわけでございます。

私今般二名の欠員になるということにつきまして考えますことは、工藤和平君は教育長として安房一高の校長、本市、教育長になって初めのうちはかなりなれなくとも、たついた点もあります。が、信念の強い教育に熱心な教育人として再度選任したいという意思をもつたわけでございます。

次に大西鷹一郎君の場合ですが、去年までは神作

君とい、早川君とい、また調代君とい、一年二年
あるいは三年そこ〜で教育委員と中途でやめる
という方がおーまーでは非常にその人々力量に
おいて未練があるわけでございますが満足に勤めて
もらうて皆さんの御協賛を得て再任して欲しいわけ
でございます。――今期をもらまーて皆は四年の
任期と一六卒業ということになりますので大西鷹
一郎君その者とつぎまーては非常に熱心でまた
計数的にも非常に明るくて学校建設その他
学校の内容充実という面は市の教育委員には
実際重要な一人であつたわけでございますが私は
教育委員は任期による教育委員というものはやはり
毎年かわるべきだということで一年二年三年四年という
法の精神を生きて交代してもらうというのがいいのじ

やないかというふうで考えと点が一つとさうに大西鷹一郎君自身が非常に最近セメント商売の業務がいそがしくてまたあちこちの商業団体の役員が多くてせいのこの際解任してもういいという申し出があつたりいたつたりして両者相まってこの際気持ちよく大西君に御勇退を願つたわけでございます。

そうして次に新しい四半生の後任としてこの委員を選任するにつつまつてはやはり従来通りの北条館山から一人那古船形から一人旧大カ村から二人という線によつてみまうと館山南北条地区から人選を初めたわけでございます。やはり匡者である川名君と

いうことでそういうことも考慮したわけでございますが結局川名浩君が最適任者であると私確信いたしましてその川名浩君を推薦申しあげた次第でございます。

ます。

川名君の略して申し上げますと三芳村渡田で生れてお
ります。昭和三年三月東北帝国大学医学部卒業。昭和
三年五月医師登録。昭和六年上海自然科学研究所
勤務。昭和十五年東北帝国大学より医学博士の学位を
授けられた。一五年七月上海自然科学研究所辞職。同
く八月中華民国上海市において開業。終戦に至る。
終戦後日本に帰りまして二年八月現住所に開業。
昭和二十六年三月館山市公安委員に就任。二十九年六月
警察法改正により館山市公安委員解任。昭和十六
年勲六等瑞宝章を下賜さる。
右の通り相違ありません。

昭和三〇年五月より北条小学校PTA会長。大体の
川名君の略は以上の通りでありまして私自身

よく川名君の教育熱心な態度並に人としての
よさを知っておりまして、ぜひこの人に四年間、館山
市の教育をおあずけ下さい。こう意思をもってお
るわけでございます。そして、皆さんの御協賛を
得たいとこのようにお願いする次第でございます。

○二番（萩生田七郎君）はい、今市長さんの御説明により
まして川名さんの人となりは大体了解いたしました。
ますが、人物その他利権と申すのも申し分ないと思
うであります。が、選考範囲におきまして市長さんは
どの程度まで他に選考なさったか、その点ともう一つ
たいい、市長さん責任をもって立派な方だと思っ
て、その通りだと思っております。もちろん市長さん
の責任で過去現在における、そう、そのものを検討
して、と思っておりますが、それを再確認したいと思

まするが御答弁願いたいと思います。

○市長(田村利男君)他の名前は遠慮さしてもらいたいと思ひますが市長は四人上げましてもっとは、まりい、ますと和泉さんと館山市内に住まわって教育委員になってらうかどうかという県の指示もある、たことを申しあげます。そういうことをすべて排除いたしまして川名君になってわけではございます。自信をもつて川名君の人柄より人格関係と信用いたひ。こういうふうで考えております。

○議長(山本 昇君)議案第六号 原案通り同意すること、御異議ありませんか。

(異議なし)と呼ぶ者あり

○議長(山本 昇君)御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り同意すること、決定いたす。

ました。

本日の議事についておはかりいたします。

日程第六以下の各議案審議は各案件の詳細なる説明のみを本日行いまして質疑以下の議事は後日の日程に移すと思ひます。がこれに御異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(山本 昇) 君 御異議なしと認めます。

よってさよう決定いたします。

議長(山本 昇) 君 日程第六議案第六三号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六三号 都市計画街路事業橋梁工事請負契約の締結に

ついて

。建設課長(新井重助君)議案第六七号について御説明
申—エグります。

御承知の通り都市計画街路事業は館山校
橋にいたる改良はすんだのでございす。その
中間におきまして平々里川に架設いたります
工事は今年ともろろして全部竣工いたります
全線の完成をみるわけにございす。

本年度の事業といつては橋梁の上部架設
とそれに伴います道路でございす。そのうち橋

梁工事は昨年度におきまして橋脚と橋台はで
きておりますので今年には上部の方をやりたいと思ひ
ます。つぎましては桁でございす。これはビー
エスコニクリートの桁を使用いたりたいと考えてお

ります。先月二三日午前十時より七社を指名いた
し、まゝに入れてまいりましたところ、ビーエスコクリート
株式会社は千四百八十八万円で落れ、まゝまゝの
でこれと契約いたしまして、まゝと考えております。
なおこの工事は街を建設するわけでございます。
その上部の方は別に入れ、まゝまゝで契約いたし
と考えております。

議長（山本 昇 君）続いて日程第七議案第六四号並び
に六五号を一括上程いたします。

（書 記 朗 読）

議案第六四号 消防団消防自動車用シャーシ購入について
、第六五号 消防団消防自動車用ポンプ購入について
。総務課長（山口 実 君）議案第六四号並びに六五号について
申しあげます。

本件は本年度当初予算におきまして分団消防車購入
 費といひまして百八十六万の協賛を得た件でございます
 して今週土曜日と五日にポニプメーカーを選定す
 るに当りまして去る八月二十五日業者メーカーといは
 して千葉いすゞ 千葉日産 千葉トヨタ この三
 社を集めさうに日本造機 日本機械 市原ポニプ
 これらを集めまして業者からの機能の説明並に
 これらの意見等を総合して研究したのでございます
 さうに九月三十日に値段の折衝等をしてるのでござい
 ます。その結果として提出いたしましてメーカーが最良
 のものであるといひまして締結しようとするもので
 ございます。

議長(山本 早一君) 続いて日程第八議案第六六号並に
 六十七号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第六号 消防署消防自動車用シャーシーの購入について

第六号

ポニプ購入について

。総務課長(山口実君)議案第六号並に六七号について御
説明申上げます。

本消防自動車購入につきましては本年度当初予算
二百十万円を本議会・協賛を得るものでございます。

シャーシーメーカーといましてトヨタ、日産、いすゞ、各

会社ポニプメーカーといまして日本造機、日本機械

市原ポニプ三社を指名し、まして去る八月二十五日、本市

に集めまして機械の性能、こちらで要求するあらゆる

点を検討し、まして結果シャーシーメーカー千葉い

すゞポニプメーカーといまして日本造機を指定

いたしまして随意契約しようとしますものでございます。

○議長(山本 昇一君)暫時休憩いたします。

一時五五分休憩

二時一〇分再開

○議長(山本 昇一君)休憩おくりまして、会議を開きます。

日程第九 議案第六八号 上程いたします。

(書 記 朗 読)

議案第六八号 玄靱連絡車の購入について

○総務課長(山口 実君)議案第六八号 について申上げます。

購入品名 ブリニス六一年式 スカイウェイバン車 載用放送装置
式々合瓦 自動車のごびいすすが放送装置をもつた
宣伝車でございまして人間を乗せる場合には六人の乗
客とたえず乗せるような装置になつております。

とういうわけでこのナーカーから自動車を選定した
かとい、ますと一応市とい、ナーマーではヒルマニプリンス
トヨベツト等六〇馬力から七〇馬力の自動車を選定
したのでござい、ます。が将来広域連絡とまうに救急
さかねた場合にこの車が客を乗せる部分が最も広
いので救急の場合にも自由になる。そういうところを
考慮し、ナーマーとこの車を購入したいと考えたわけで
ござい、ます。以上でござい、ます。

議長（山本 昇一君）続いて日程第二 議案第七〇号と上程し、ま
す。

（書記朗読）

議案第七〇号 東長田用水路改良事業用資材の購入について

。農務統計課長（吉田耕一君）議案第七〇号について御説明いたします。
先般の歳会におきまして小田地の開発整備事業の事

業員の議決をお願いいたす。又、東長田の用水
路改良事業のしき満の資材を今圓購入しようとし
るものでございます。数量のハ一丸本に對してても

市内各商店三社を以て積りて徴し、又、なお品物の検
査と土地改良事務所をお願いいたす。又、ところ
三社の製品とも、優劣がございます。従い、して価格
が一番安いというような点からいって、館山市
川名の六九番地三滝商店と隨意契約をいたす
いと考へ、して提案いたす。又、次第でございます。

よろしくお願いいたします。

議長(山本 昇) 続いて日程第一二議案第七一号を上げ、
まして。

(書記朗読)

議案第七一号、昭和三年夏季事業分担金の賦課総額の決定について

。農産課長吉田耕一君（七号）につきまゝに御説明いたします。
今年迄の小田地開発整備事業並びに林道の開発事
業の分担金と定めようとするものでございます。

なお以上の事業費につきまゝでは前回の議会におき
まして御議決を得てある次第でございます。

最初に林道開発整備事業の大神官の分担金賦課
総額でございます。

総事業費が二百三十三万五千七百円に對しまして九
十六万三千円を賦課しようとするものでございます。
次に小田地開発整備事業の二につきましては神戶の
星祭農道改良事業でございます。これは総工費
百三十一万七千円に對しまして七十一万八千五百円を
賦課しようとするものでございます。

二の竜岡農道につきましては総工費六十九万円の

計一萬四千四百元を賦課しようとするものでござい
ます。

三の西長田の農道百十九万四千円に計一萬四千六百七
十元。

四の山下農道におきましては総工費百五十二万九千
七十六万四千五百元。

洲宮頭首工改良事業費につきましては一ヶ所でご
ざいまして六十六万五千円に計一萬四千七百二十元。
六の東長田の用水路の事業でございすすが工事費
が四十五万三千円に計一萬四千七百二十元六千五百元。

合計いまして四百三十三万六千六百元以上の額を賦
課総額といまして御決定願いたい。館山市の令担
金条例三条の一項の規定によりまして決定いたいた
と考へまして提案した次第でございす。

。議長（山本 昇 君）続いて日程第一三議案第七二号。

（書 記 朗 読）

議案第七二号、中学校科学建設費指定金は収受について
庶務課長（鶴沢 貴 貴 君）議案第七二号について御説明いたします。

この金は金百五十万圓はニ中学校科学館建設期成会長の
川名正義さんより寄附の申し出があったのでございます。

これは本年度ニ中にあるとして八教室を増築すること
になっております。それで一応生徒急増によりまして

この八教室はもうても現在のところ普通教室であつて
なければならぬ状況でございますが将来生徒が減
ることがわかつておりましてこれが特別教室に使え
る場合には科学館として使用するという条件のもと
に金は申し入れたわけでございます。以上であります。

○議長(山本 昇 君) 日程第一四議案第七三号。

(書 記 朗 読)

議案第七三号 高等学校産業教育施設費指定寄付金収受について
○庶務課長(鶴沢貫資 君) 館山高등학교におきましては、また校舎
の坪数が基準坪数より三〇〇坪も不足しているわけで
ございます。

本年度産業教育施設費として国より三分の一の補助の
内定がございまして、これとPTA会長からの申し
出によりまして五十万の寄付、あと残り八万円を市費
と市費で負担いたしまして、総計八十七万三千円で産業
教育施設費といまして、商品実驗室三〇坪の建
物をしようという計画でございます。

そのための寄付申し込みでございします。

○議長(山本 昇 君) 次日程第一五議案第七四号。

(書 記 朗 読)

議案第々四号 休養施設備品費指定券は金収受について

。総務課長(山口実 君) 議案第々四号について説明いたします。

券は申上書目にある通り今園千葉銀行より鳩山荘の備品費の一部に使用するため券は申上とみがあるため今園上程一々次等でございます。以上でございます。

。議長(山本 昇一君) 日程第一六 議案第々五号。

(書 記 朗 読)

議案第々六号 館山市国民健康保険条例の一部を改正するについて

。保険課長神作啓次郎君 議案第々五号について御説明申し上げます。
従来の規定では保険料の中途において被保険者が増加もしくは
又は新規加入とばす場合はその日の翌日保険料を賦課
算定し逆に保険者が減ったときはその月まで保険料
へ月割り計算をするというものでこの規定が他の社

会保険と一致してゐるか、ために他の社会保険に移る
 場合には保険料を重複納入しなければならぬという
 ことになります。又面地の社会保険から国保に移る
 場合にはその月分から保険料を徴収するにもか
 わらず翌月からとるので早急にこれを是正し統一
 一全国的に実行期日を十月一日とし条例の一部改正を
 行うよう果から指示がある、たので本市もそのように
 改正しようとするもので別段の影響はないはずであ
 ります。すなわちこの改正により年度中途における
 保険者増の場合にはその月分から保険料を算定し
 一逆に保険者を減となる、る場合にはその月分まで
 打ち切り計算を行い保険料を徴収しようとするもの
 でございます。

議長(山本 早)是読して日程第一七議案第七六号と上

程いります。

(書記朗読)

議案第七十六号 千葉市外百一市町村、軽自動車税の賦課徴収に関する
事務を行う職員、の共同設置規約の一部を改正するにつて
。税務第一課長真田森吉君 議案七十六号についてその理由を御説明申し
上げます。

題名と第一条の改定は、渠下の市町村数、従来は千葉市
外一〇一であり、昭和三十四年四月一日に一市減いたので
一〇〇に改定しようとするものでございます。

第五条の改正は、負担金の算定の基礎と当該年度分
の地方税、交付税の量によつていたのですが、負担金
賦課徴収に支障があるとのことで、これを前年度の量
に改めようとするものでございます。

。議長山本 昇 君 読まして曰、程第一八、議案第十七号及び十八号

を一括して上程いたします。

(書記朗読)

議案第七号 館山市職員給与条例の一部を改正するについて

二号 学校職員給与条例の一部を改正するについて

。秘書課長代理(小倉澄男君)七十七号について御説明いたします。

本業は昨年の七月に人事院の勧告によりまして国家公務員の初任給が低いということによりましてわれわれ館山市議会に提案いたしました。御承認をいたしまして現在、給与条例に對しまして本年の人事院の勧告によりまして行いまして初任給の改正の結果申されるみ状態になるということでは中堅クラスにおきましてアンバランスな給与体系ができた、それを是正するということが、暫定手当て本俸に繰り入れる、現在の給与には非常にアンバランスが多い、このためにアンバランスを訂

正するため、人事院の勧告に基きましてやうにしております。
この給与の改定でございますが、本市におきましてはこれを
よく検討いたしまして結果、その賦源というところで地方交
付税に賦源の目通しがつきますので、このため本案を上
程いたします。皆さんの御承認を得たいと思っております。此等
でございます。なお参考までに申上げますと、現在の
給与体系から最高で中堅クラスの二万二千円が千百円の
アップになります。三万五、六千円のは三十円、一番下の人
は三百円アップ。こういうような状態でございます。
まう、お願いいたします。

。庶務課長鶴沢貫寛君議案七八号について御説明いたします。

今回、国及び県におきまして、教頭、幼稚園長に對しても
管理職手当が支給されるようになりまして、本市に
おきましてもこれにならうとして、この四月一日にさか上

つて、では高等学校の教頭だけが該当するものであります。それに対して、管理職手当を支給するといふ条例でございます。

別表第一から第三までの改正は、いま小倉主事から説明されまして、本市職員の条例に、なうございまして、給与表を改正してわけでございます。

それから第一七条の、定時制通信教育手当と申しますのは、今圓やけり国果にあつて、定時制の課程を置く高等学校の校長に対して、定時制通信教育手当を支給するといふことがござります。それで本市におきまして、国果に、なうございまして、この制を、条例を改正して、手当を支給しようといふものでございます。率は、本俸の五割でございます。これを本年の四月に、さかのぼって支給するといふものでございます。

。議長山本 昇(君)読まして日程第一九 議案第七九号ハ
ロ号ハ一号を一括上程いたします。

(書同 記 朗 読)

議案第七九号 昭和三十五年定特別会計公益質屋追加更正予算

ハロ号 " 国民健康保険 " "

ハ一号 " 畜 場 " "

。秘書課長代理(小倉澄男君)特別会計の支出につきまして申し
上げます。

これは大抵いまの給与条例の一部改正によりまして増額す
る吏員給給料と並んで六月の議会におきまして特別に
よりましてこの三つの期末手当の増額と御承認いたしま
す。大分の追加予算高でございます。この内特に御
説明申し上げるところはハロ号議案で国民健康保
険の給料でございますが、これは職員全員吏員に

なつておりましたので、で給料、おかう更正いまして、
 更に更員給に繰り入れまして、なおこの三件の財
 源は予備費を流用いたしてこれに充てました。
 以上でございます。

○議長（山本 昇）君）読まして日程第一〇 議案第八二号を
 上程いたします。

（書記朗読）

議案第八二号 昭和三十五年特別会計休養施設追加更正予算。
 ○秘書課長代理（小倉澄男君）議案第八二号について申し上げます
 本件は支出につきまして人件費関係はいいし申し
 上げました通り、今回の給与条例の改正と前回の
 特例に伴う追加額でございます。

○商工水産課長（羽山 房雄君）読まして需用費の関係、御
 説明いたします。

消耗品費におきまして今月＝万九千百四十月の追加
をお願いしたわけでございすすがこれは大体十一月か
ら五ヶ月間不足と生じるというふうな、石けんあるい
は薬品水の消毒代でございす。そういうものと合
せて約三割だけ不足いたすというので消耗品費にお
きまして三万九千百四十月をお願いしたわけでござい
す。

次に光熱水費の四万八千月は電気料金一ヶ月平均一
万二千円とみましてまいのころ四ヶ月分不足し
ておりますので三割だけ追加いたす。

次に通信運搬費一万五千円も大体一ヶ月五千円程
度の電信料三ヶ月分不足しておりますので追加を
お願いしたわけでございす。

次に一九節の手数料も不足分を見とみます。

二三節 修繕料におきまして二千元も応接セット等のカバリーの洗濯代 こういうものとみております。

二四節 工事請負費におきまして五千元の追加をお願いいたしますのは果道から鳩山荘の玄関まで約百メートルほどでございます。通りに街灯が一灯もございませぬので目も短くございまして不便をきたしてありますので二灯分一灯二千五百円で五千元をお願いいたします。

次に課税金の七万円は遊興飲食税が課せられます。その果税の課せられる基準額と月平均十万とあつて、まして七月分、これは一〇〇分の一〇七万円と見込んでおられます。同様のもので歳入に書いてございまして、これはお客さまから預かったものを果税にまわすのでございます。

第三款休養施設建設費におきまして工事請負費十
万六千円は南設後各室あるいは各サニールム等によりンタ
ホーニこれは電話でございす。室内電話を一五本、この
配線工事等の費用でございす。

次に三款の公債費の三十一万四千四百二十円減額といま
うして更正いたしと考へた次第でございす。

起債の決定後大休五月三十日まで起債が認可にな
るとその後の六月から約三〇五日分の利子と加算いたし
て当初予算で八十二万幾らの議決を願ふわけでござい
ますところが起債が許可になり、て起債が許可になり、て
こちらに現金が参りますのが六月二十五日でございま
す。その五日間分の三十一万四千四百二十円を減額したわ
けでございす。

大入で先ほど七四号議案 寄附金ハ三十万円を第三款

寄付金として計上いたす。

次に四款繰入金 今回、更正により、財源と一般会計へ
かえす。さういふ分を三万繰入金として計上いたす。
雑収入として遊興飲食祝分七万用 以上でございす。

議長(山本 昇) 暫時休憩いたす。

二時五十分 休憩

三時四十分 再開

議長(山本 昇) 休憩をとり、続き会議を行います。

日程第二 議案第八号

(書 記 朗 読)

議案第八号 昭和三十五年一般会計追加更正予算。

秘書課長(小倉 登男) 歳出について御説明申し上げます。

支出のうちの人件費について申し上げます。

これは各款の各項に分れておりますが省界いまして
統括的に申し上げます。教育費を除きまして本俸で

百八十万職員手当六十四万、それから手当のうち之恩

給、共済組合負担金＝百二十六万円、それから先般の

議会におきまして御承認をいたしまして期末手当の

〇.三〇引上げによります。百四十万三千円その他扶

養手当等総額四百十六万円の追加をお願いいたします。

一、

。建設課長新年重助君支出の第四款土木費について御説明申
し上げます。

河川港湾費におきまして、館山^港補修築工事事業と船形港修
築事業でございますが、これは当初におきまして館山港
八百万円を予算に組み入れたのでございますが決定が

九百万とギリギリで差額百万円、三割へ負担でござ
いますので三十万追加したいと考えております。 主な船形

港でございますがこれは二千万円予算を組みました

今週二千五百万の工費で竣工することになり、それで差額
五百万円の二割五分でございますので百二十五万円を追
加したいと思っております。 五項の水道費については給料

その他でございますので説明と有る限り申し上げます。

。庶務課長（鶴沢貴宣）君 教育費について御説明いたします。

教育費は給料表による中であるみの増加分 全部で五十六
万二千四百十円、^{のなかで}三八％の増となっております。

小学校費は、おききとして諸平寄りのうちの退職手当三千
六万六千三百円、北条小学校の便所といふことで
二年勤務してより、山口さんが四月三十日で退職
いたしました退職手当でございします。

需要費の報償費一万円 研究指定学校講師謝礼
これは豊房小学校が今年統計教育の研究学校に指
定されまして果補助金として五千円を交付されること
になりましてそので同額を市費でやりまして一万円とこ
ゝに追加いたしまして。

印刷製本費の一万円 これもやはり館野小学校が去年に
競まして国語の研究学校として指定されましてそので
果から補助金五千円交付するわけでこれに同額とど
くしまして、一万円を追加して次第でございす。
それから諸品費で十八万円を更正いたしましてが今
年は理科振興法によります補助を小学校のたに
予定してあるものでございす。果の都合によりま
して中学校のたに指定されましてそのでこれを中学校
のたに更正いたわけをございす。それから扶助

費で七万六千六百円、これは標準深瀬児童の給食扶助費が当初予算より増額いたしまして、それで追加いたしました。

中学校費で諸手当の退職手当八万二千円は二中の便丁勤続年数十一年の方が七月四日付でやめました退職手当でございます。需要費の備品費十八万円理科設備費、これは小学校費から更へまして、たものでございます。今年に神余中学校が理科教育の指定校になりました。管理費で旅費消耗品費食糧費手数料、これは第二中学校へ増築工事費の事務費でございます。二四節の工事請負費二百十四万四千円は当初予算でこの二中の工事費として七百十五万円を計上してございましたが、今度これに二百十四万円を追加いたしまして事業計画の変更と

しやうとするものでございます。この財源といふことは――
予――て当初予定してありまして起債の二百万が四百
万に増額されまして、その国庫補助金二百六十万
を予定してありましてのが二百七十七万七千六百円に上り
まして、その分を財源に充ててあるのでございます。
この事業計画の変更でございますが八教室増築す
るのであります。四教室は本校舎の東側のすに二
階建四教室、これは将来科学館として使用する
予定の校舎、それからさうと四教室は講堂に参ります
ところと四教室、平屋建でございますが、その上に二
階建として四教室増築するわけでございますが、最
初の予定では四教室そのまゝ、のせる計画でございま
すが、それを一教室とりこめて、まして西側のすにも
つていきまして三教室を補強して八教室＝階建と

いうふうな計画を更^変へたわけでございます。

それから最初このための便所を予定してありません
で、それが便所を二ヶ坪、渡り廊下二坪の便所をさ
うに増築するためには計画の中に入れてわけでござい
ます。

高校におきまして管理職手当二万九千五百円は条
例改正によりまして教頭の本俸の七％に当る額で
ございます。退職手当八十七万二千五百円は長谷川

教諭が三月三十日付で退職いたしました。これは

勤続年数が一四年で三十一万七千三百二十円の手当
でございます。それから和田教諭がやめましてこれ

が二一年五十四万五千百八十円の退職手当、合せて八十七
万二千五百円でございます。それから定時制通信

教育手当、これは定時制全日制と校長が兼務して

おりますのでそれに対します午当でございす
これは本俸の五％に当る額でございす。

管轄費で旅費 消耗品費 午教料等はその下の工
事請負費の事務費でございす。

二四節の工事請負費八十七万三千円は先ほど承け收受
の議案のときに説明いたしまして商品実験室として
三分の一国庫補助のあるものでございす。

幼稚園におきまして職員^手の退職手当で五人分
十五万四千四百円計としてあります。これは幼稚園
の教諭が五人三月三十一日付で二人八月三十一日付九月
二日付で三人合せて五人退職いたしましてための退
職手当でございす。賃金で十五万六千円は退職
による先生の補充として助手三人を雇ひあげて
雇料でございす。

青年学級の工事請負費三万月は当初予算におま
ずして神余の青年学級の工事費として十六万を計
してございます。十六万では少し不足いたりますの
で地元から寄付をお願いしたのでそのまゝ三万月計
としてわけてございます。

図書館費の諸手書きで退職手当三万四千百円計とい
えりましてこれは図書館の雇いの黒瀬君が九月十
六日で退職いたしまして勤続年数が七年で退
職手当三万四千百円とありますのでその分を計として
わけてございます。

それから需用費で報償費五千月は看守人の
謝礼でございます。

図書館が分館に移すためド看守人によめて
いたりますのでそのための謝礼金でございます。

それから賃金 燃料費 光熱水費 通信運搬費 手数料
これらは新しい図書館に限りません。これは当初予算におきましては
書いてなかったものでございます。それから営繕費の修
繕料十万円は現在の図書館の建物の修繕料として
計とさせていただきます。以上で教育費の説明を終
ります。

。福祉事務局長（長谷川 宏治 君）八款について御説明申し上げます。
今回追加予算額として百五十九万三千円余と計上し
ております。この主なるものは御承知の如く、社会福祉
年金の事務に伴う費用が大部分でございます。

三項の児童福祉の大きな金額としては三三節の負担
金補助及び交付金が三万円交付してあります。これは
七項として新設といっております。精神薄弱者援護費

に項目を変更する とういうことで更正してわけでございます
 いま 二四節の工事請負費 同項の中ト三万円計
 いたしまして、これは市内に現在設置してあります
 子供の遊び場の修繕代でございます。 船舶ほか三ヶ所
 でございます。

七項の精神薄弱者援護費として三万円計
 いたしまして、これは御承知の通り 本年四月 精神薄弱者
 援護法 とういう法律でございまして、その仕事を市の
 責任で行う とういうことになりました。及び国の補助
 金のワケがございまして、その範囲内で費用を計
 上いたしまして、

需用費で三万四千円計
 二五の各節におきまして、国の補助金のワケに考へ合せ
 ずして、それらの費用を計上いたしまして、

三三節の三万月は三項にもつてあつたものでございませう。

九項の福祉事業諸費は十三万六千六百五十月計といつて
一と。このうちおもひつものは現在行われております各小
学校の運動会に合せて行います敬老会の記念品代が不
足りたりするもので残ると思ひます。戦源を更へ
て追加いたしなれりてございませう。二二節の委託料
一万四千月は最近市内に内職の幹施を申しでてくる方
が相当地にございませうので婦人団体にお願いして内職に
適当とされる職種とか賃金そのようなものを御調
査いたしくかういうことで一万四千月の委託料を差上げ
てあります。三三節に十万月計といつてなつたがこ
うな養老年金が六万月 最近年金の数がふえさ
て約四十人不足いたつたのでこれが六万月 それから
心配と相談して南設補助金として計といつて一と。

これは各市町村に心配ごと相談所を開設しいろいろ相談に応ずる とういうようとで福祉協議会が主体となって開設しいろいろ次第でございすが年度途中でありますので財源的に苦しい とういうことで開設までの費用 全常的な費用のうち三分の一を補助してもらってこれが便命をはかっているといふたい このように考えておるわけでございます。

一三款の国民年金事務取扱費として百三十七万六千八百円計といふことですが、これは十月からうけどまります。提出料の年金の事務処理に伴う費用で大部分は人件費でございす。なお提出制につきましてもいろいろの問題点と申しますか全部で正式な職員でなく一部は臨時職員であつていく。それから国民補助金がございすのでその枠内で最低の費用

と計といえりわけでございます。このうち旅費として七万六千円は拠出制に入ってくる世帯の調査を全国一斉に実施しわけでございますがこれを市の職員にお願いし、その旅費が五万二千円、それから普通旅費二万四千円、四目需用費十八万五千円計二十一万七千円。これはさっき申しあげました通り一部臨時に使いますのでその費用として十二万円、それからあとの消耗品、食糧費等は、その整理に伴う費用でございます。以上であります。

○厚生課長（伊藤幸太郎君）一四項厚生援護費で今間追加額十万六千二百円、これは全額慰霊祭の執行に基きますところの費用でございます。

次に九款の保健衛生費でございますが、四項の隔離病舎費、これは人件費でございますので省署にまかします。

次に六項火葬場費九万四千二百三十円 このうち需用費で八万五百円の追加でございます。

二四節へ工事請負費六万二千円は先ほどお話しありまして煙突の修理に要します工事請負費でございまして八項の環境衛生費十六万円の追加でございします。

この十六万円の内訳といましては各町内会ごとく薬剤の幹施といましてあるわけですがこの不足分十二万円がまゐるものでございします。 又この十二万円に對しましては支入にございしますが業者の滞り金は三万円並に実務徴収金の九万円が織り込んでございします。以上でございします。

○農産統計課長(吉田耕一君) 二款の産業経済費につきまして御説明申し上げます。

一項農業委員会費は人件費でございしますので省畧いたし

ます。

二項農林費で今回八万一千円、追加をお願いいたしまして、これは千葉県の指定園芸特産地の設定をするということになりまして、果物に對して四万五百万円の補助金と、そして市も同額の助成をいたしまして特産地の設定をいたしたいと考えるわけでございます。

次に三項の新農山漁村対策費で三百六十二万一千円の追加をお願いしようとするものであります。一月の特別助成施設

費でございまして、負担金、補助及び交付金で二百六十万七千円を計いたしまして、このうち小規模土地改良

事業補助金として五ヶ所を本年度実施することによりてあります。笠原館山の水利組合、青柳川崎船形の土地改良でございます。これに對しては国の助成百八万八千円、市の助成八十五万五千円、合せて

百九十四万三千円を助成したいと考えるわけでございます。

次の共同集荷施設の補助金でございますがこれは八幡と正木の二ヶ所が採択になりまして国なる市の助成四十六万四千円を計というわけでございます。

次の漁船用の共同給水施設でございますがこれは一ヶ所船形の漁業協同組合を単位としてこの施設をするように二十万助成したいと考えて、これに百六十七千円を計というわけでございます。

一、統計調査費につきまして申しあげます。十月一日から零時までの間に全国一斉に調査されます国勢調査に要します費用を御願います。すなわちでございます。総額五十八万四千五百四十円を計というわけでございます。

本市の調査区を二大調査区に分けまして調査員二十六人と委嘱任命いたしましてわけでございます。従いましてこれに要します報酬として四十一万八千六百円。この調査員の指導員として九名を任命いたしましてこれに要する報酬一万九千八百円合せて四十三万八千円を計といたしましてわけでございます。

需用費で十四万六千余円をお願いしようとするものであります。九節・賃金でございますがこれに要します臨時用人の雇上料をお願いいたしまして。一四節の印刷製本費二月については国の委任調査といまして、また本市の調査として必要な事項を許可を得まして、これに調査ついでに算計いたそうというふうな関係から、それに要します印刷費二月を計といたしましてわけでございます。以上は通常経費でございますので省畧させていただきます。

ます。以上でございます。

○総務課長山口 実君 戦害費について申し上げます。

二、節施設費九万円でございす。が今岡田館山訓練所
へ建物二棟を今回払い下げる予定で九万円計をいす。
た。

○選挙書記兼大島重義君 一、款選挙費について申し上げます。

御承知の通り衆議院は十月解散す。総選挙が行わ
れる状況にございす。また、総選挙が行われる

場合には最高裁判所の裁判官の国民審査が行われる

予定でありましてさらにまたこの総選挙の発効に伴い

まして本県になす。これは参議院の地方区の選出議

員に欠員を生ずる様でございす。この補欠選挙

が衆議院の総選挙後に行われる状況にございす。の

でこの予定されす。二つの選挙費を前回の選挙の実

續々基準に達し計より次第でございませう

一項の選挙管理委員会費については人件費でござい
ますので省畧させていたしております

五項の衆議院議員選挙並に最高裁判所裁判官国
民審査費で五十九万百七十円を計上しております。この
内訳は報酬に二十八万七千七百七十円旅費に五万七千九百
四十円諸手当に二十五万四百円需用費に二十五万三千
六十円を計上しております。これの内訳は付記により御了
承願いたいと思っております

その他各費につきましては全部国の委託金をもってまかなう
ことになっております。以上でございます

○総務課長(山口 実君)支出合計三億六千五百五十九万七千四百
七十七円次に文入に拂っております

三款地方交付税において今回七百五十六万二千円これで

本年の交付税は普通交付税の決定した額は六千九百十三万円で今度の追加で六千八百十一万九千円でございます。

次に自転車収入について申し上げます。

今回乗用車購入のため競輪収入を百三万五千円まわすのでございます。競輪は今年度三回終了いたしました。

が昨年と同様収入状況は良好なので一応百三万五千円見込んで計上いたしました。

次に項売却代金で一節建物売却代金でござります。

百三万五千円は付記にある通り旧図書館の払下げ

二十一万と旧庁舎の一部十八万五千円、それから第一

中学校校舎売却代金六十四万円は屋根を売り払

う代金でござります。

次に国庫支出金について申し上げます。国庫負担金の

教育費負担金二十九万三千円は支出で説明のあり
ます。と産業教育施設の負担金でございます。

次に文教施設負担金は第二中学校の舎増築に關する負担金でございます。

二項国庫補助金百七十一万五千二百円について申しあげ
ます。四節学校給食補助金これは準要保護児童
学校給食補助金として国庫より六万四千二百円参
入ものでございます。

次に新農山漁村対策補助金も支出で説明のあり、通り
でございます。

三項委託金二百四十五万四千四百三十円は国勢調査並び
に衆議院議員選挙、参議院議員選挙の国庫支出金
でございます。

次に八款果実支出金五万三千八百円は付記にある通りで

でございます。

九款寄付金五十六万円でございす。また支出で説明のあった通り、薬品業者の寄付金三万、教育寄付金で今、岡館山高校商品実験室、寄付金の五万と神余青年学校建築事業員の寄付金三万、合計五十三万円でございす。

一二款雑収入三十九万五百万円の追加をお願いいたす。これは生活保護の本年、収入三十六万五百万円、環境衛生費、薬剤費、実費徴収金十三万円でございす。次に一二款市債二百万の追加でございす。今、岡教育市債が四百万と決定になったので、二百万追加したのでございす。

又、入合計三億六千五百五十九万七千四百七十七円、又、支出差引き零であります。

議長（山本 昇君）以上もろろして議案第八三号の説明は
終りました。

議長（山本 昇君）続いて議案第八四号、

（書 記 朗 読）

議案第八四号 乗用車の購入について

の総務課長（山口 実君）議案第八四号について申しあげます。

本市にはたいいまプリンス一台とマークリー一台の二台が動い
ているのであります。マークリーはすでに老朽にア
リてほとんど遠乗りには安心して使えない状況でござ
います。つまり市の方針というよりどうしても
常に自由に使える乗用車が二台なければいけないと
いうことで今回乗用車を一台中購入しようとするもの
でございまして、これにお願いいたします。プリンスカイ

ライニデラックス馬カヲ購入しようとするものでござ
います。

議長(山本 野) 続いて日程第二三議案第八七号と工程ハ
ア一まず。

この際お諮りいたします。

先ほど本日ハ日程トつきました。一応議案を朗読いたし
まして説明。以後は後日ということに御了承願いたい
のであります。が特別本議案は説明いたしますとともに
これと決定するで審議いたします。とかやうに考えます
が御異議ございませんか。

(異議「議事」と呼ぶ者あり)

議長(山本 野) 御異議ございません。

よってさう決定いたします。

(書 記 朗 読)

議案第ハ号 国民年金に關する意見書

議長(山本 界)君 本意見につぎよりて發議者を代表いたし
しよりて松本藤太郎君の說明を求めます

御登壇願います。

(松本藤太郎君登壇)

三番(松本藤太郎君)發議者を代表いたしよりて本案の說明を
いさします。

御承知通り国民年金法が制定されよりてお互いに待
望よりかゝる非常に結構な法律でございまして喜んで
たえない次第でございします。昨年二月からその一つ
として無拠出制の年金が実施されております。

そうして来年四月から拠出による国民年金が發足
しようとしてあるわけでございします。この年金の対象

となる人は恩給并済年金あるいは厚生年金という
ような年金をいって以外の方でございます。 簡単に

申しあげますと、その対象となる方というのは国民健康保
険の組合員あるいは日産健康保険の組合員、こういう
ような方々が対象になるわけでございす。 この階層は

非常に貧富の差が^{最大}階層であり、その大半の方
の生活というものが、そうゆりのあるものとは考えられ
ないでございす。 内容をみますと、この掛金が最高

四〇年掛ける四〇年掛け続けて五年据置、合計四
五年経てけりて、最前が三千五百円でございす。

掛金四〇年といううは世界各国調べてみても三〇年が
最高で四〇年というのが世界で一番長い。 一かも対象者
がそういう階層で長すぎや—ないかという点が
指摘されるわけでございす。 また年をとってから受

ける受給年金でございすすが普通の恩給あるいは共済
料金 厚生年金等につぎまゝではやいのは五〇万から
五五万でもうえるのでありますすがこの国民年金について
は六五万というように年金が高くなつております。

まうに死亡した場合の点でございすすが六五万になる直
前に病気で死んでも掛け損というふうなことのないよ
うに死亡した場合には遺族に還元すべきである。この
ように考ふるわけです。それから年金の額でござい
ます。今申しエグまゝ通り四〇年かけて五年据置で
三千五百円もいうこととございす。この年金
額の増額 今目においても千円や二千円では生活で
まゐりせん。まゝてや将来においてはその^保証というもの
はでないわけであります。まあスライドにするかどうか
かわりませんがその場合でもやはり掛金がそれにそつて

上るわけではない。もう金額を増加していかなければならぬのじゃないか。このように考えるわけでございます。さうく保険料でございますが三四オマで百円、三五オマか、百五十円ということ。これも強制加入であり掛金も義務を負わされておるわけでございますが、こういう点もそういうことで、強く強制を避けてということも考えられるわけでございます。さうく身体障害年金という点についても一五年以上掛金を継続していると、けがをした場合でもその対象にならないというふうな非常に厳しい内容があるわけでございます。またこの積立金ですが、全国で二千百億ということがいわれております。この金が五年後は二十五億、一〇年後には五十七億ということもできております。こういう、たような金は社会保障制度という精神にのっとります。

—でその方面に使、ていた。このように考えてお
るわけでございます。

館山市にはどへ位の該当者がおるかという点でございます
が、それは、より調べて上げませんが大体当初申しあげま
—たような観点からみますと三四、五〇〇人という人数が
でて参ります。これはニ〇才以下の者も入、ておるわけ
でございますが、そのようになります。世帯数に

おきまして、全世帯数へ大体五七、八〇、四〇世帯、こういう
数字がでて参ります。これは先ほど申した国保の面を

らみますのであります。国保の掛合が全部掛け通せない
高いというよりも、その日の生活に追われる。要するに、そ
れだけの収入がない、そういうことで国民健康保険が
掛け通せない人が相当あります。生活保護を受け
るか受けないかの線におる人が非常に多いので、国民

年金の掛金を免除してもらうことはよく／＼の者で
なければ適用は受けない。こういうふうになつております。
また健康保険の均等割だけを納めてゐる人も
あります。こういうふうなことでございましていま少し
内容を改正していただきたいと思ひます。そうしてもっと
よい年金にしてもらいたい。このように考へるわけでご
ざいます。私もはこの立派な国民年金でございま
すのでもう一歩當るに御用考を願つてよりき派なもの
にしていただきたい。こういうことは館山市としてもちろ
くさんの該當者があるからわれ／＼議會人として
この年金に反対ということではじつ／＼内容をよりよくし
ていただくために意見書と當るに提出いたしたい。
このようなことから發議といつた次第でございしますの
でびくとぞ満場の御賛同をいただきたいと願ひ申し

エグる次第でございます。(拍手)

議長(山本 早一君) 今、説明に付、まして何か御質問ございますせんか。

ゾーと認めます

議案第一七号の意見書と本議会の意見として決定し、決定の手続きによります方法をとることに御異議ございせんか。

(「異議ゾー」と呼ぶ者あり)

議長(山本 早一君) 御異議ゾーと認めます。

よって本議案を決定し、決定の手続きを議長において行います。さよう御了承願います。

本日の会議は以エてもち、散会といります。

次回は十月三日午前十時開会といります。

その議事は議案第六三号乃至第七四号に対する審議

を継続しつゝ

散会しつゝ

昭和十五年九月三日

午後四時十五分散会

